

ほ乳器具の洗浄・管理のポイント

ほ乳器具は衛生的に管理していますか？

生まれた子牛が最初に口にするのは初乳です。
細菌に汚染された初乳が子牛の口から入ると・・・下痢のリスクが高くなります。
子牛の下痢を予防するためには、**細菌を入れない、増やさない**ことが大事です。



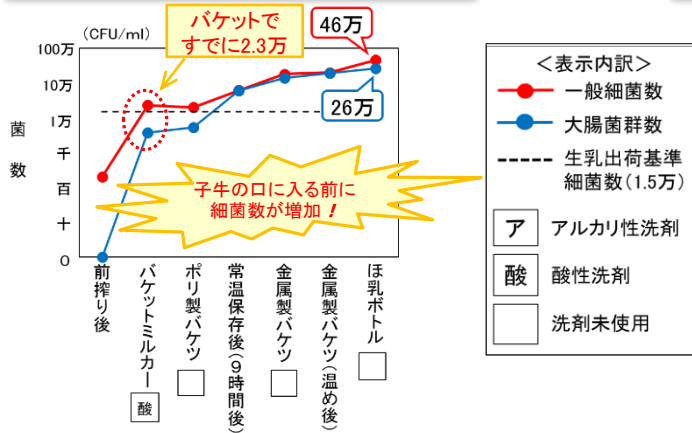
生まれた子牛に最初に与える大事な初乳

- ・ 初乳を搾るバケツミルカーは清潔ですか？
- ・ ほ乳ボトル、ほ乳バケツ、乳首はきれいですか？
- ・ 初乳の加温殺菌装置（パスチャライザー）は正しく機能していますか？

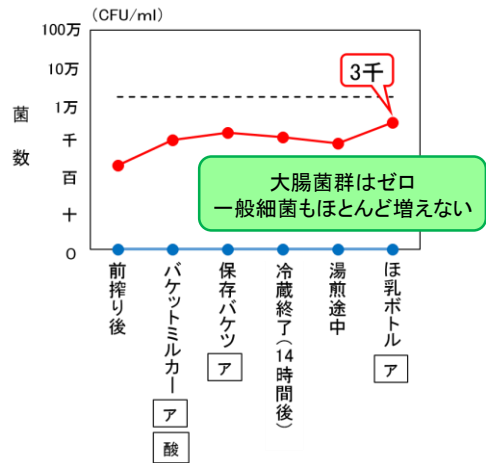
初乳に含まれる細菌数の推移 ～ 搾乳してから子牛の口に入るまで ～

洗浄が不十分で汚れが残ったままのほ乳器具では、細菌に汚染された初乳を子牛に飲ませていることになってしまいます！！

▲ アルカリ性洗剤未使用の農場



◎ 毎回アルカリ性洗剤で洗浄している農場

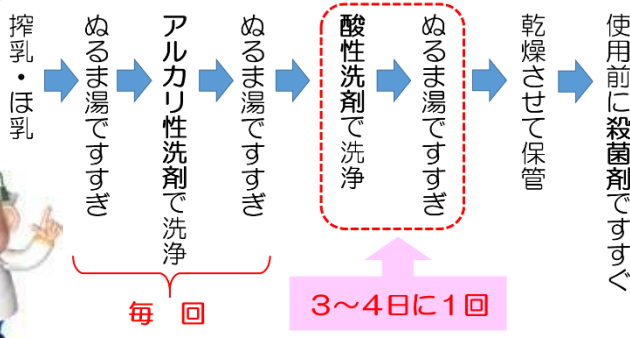


※ 根室農業改良普及センター資料を一部改編

ほ乳器具の洗浄手順

ほ乳器具の洗浄手順は、ミルカーの洗浄手順と同じです

汚れのひどい場合には、3～4日に1回、酸性洗剤を使用して洗浄します。



- アルカリ性洗剤は、乳脂肪やタンパク質の汚れを除去：洗浄温度は50～80℃
- 酸性洗剤は、乳石などを除去：洗浄温度は50～80℃
- 殺菌剤は40℃前後のぬるま湯で調整。**熱湯はダメ！**
- 洗剤や殺菌剤は各メーカーで指定された濃度で希釈して使用する。

※ 根室農業改良普及センター資料を一部改編



バケットミルクカー

- パイプラインの洗浄ラインにつなぐだけでは不十分かもしれません。
- ふたの裏やパッキンなど汚れが残りやすい部分を確認して、丁寧に洗いましょう。
- 汚れやすい部分は、酪農洗剤（アルカリ性、酸性）を使って手洗いすることが必要です。
- ライナーゴムやミルクチューブ類などは定期的に確認、劣化していたら交換しましょう。

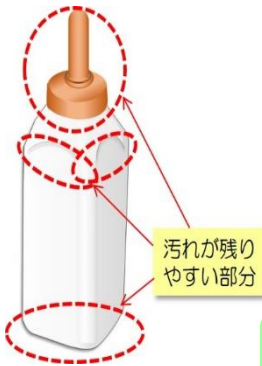


バケットミルクカーのふたの裏の汚れ



ミルククローの中の汚れ

ほ乳ボトル



汚れが残りやすい部分

使用後はぬるま湯ですすいだ後、希釈したアルカリ性洗剤を入れる



専用のブラシを使い洗う



肩や底の部分は念入りに



乳首は洗った後は、殺菌剤等に30分程度浸け置き



逆さまにして水を切り、乾燥させて保管する



ぬるま湯ですすぐ



あまり長く浸け置きすると、素材によっては劣化します



ほ育センターにおけるほ乳器具の管理事例

酪農家のみなさんから子牛を預かるほ育・育成センター等では、ほ乳器具を洗浄した後は、次亜塩素水やオゾン水等を使用して殺菌を行っているセンターもあります。

次亜塩素水やオゾン水は、食品工場等で殺菌用として利用されています。

次亜塩素水等を利用して殺菌



ほ乳器具類は整理整頓され、適切に保管



ほ乳器具の適切な洗浄・保管を心がけて、子牛の下痢を減らしましょう！！

作成：十勝農業改良普及センター